

表紙エッセイ

わが家はクレオール

荻野アンナ (小説家)

新任のごあいさつ

小松 諄悦 (国際交流基金日本語国際センター副所長)

特別報告

海外の日本語教育の現状

- 1998年海外日本語教育機関調査の結果について -  
国際交流基金日本語国際センター情報交流課

国際交流基金日本語国際センター設立10周年記念国際シンポジウム

「日本語は役に立つか?

~ 国際語としての日本語の可能性を探る ~」を開催して

日本語国際センター総務課

中・上級 新聞・雑誌から見る現代日本

第5回 大学入試センター試験問題

本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。

初・中級 写真で見る日本人の生活

通勤

日本語・日本語教育を研究する

第13回 第二言語習得研究に基づくシラバス・デザインのお方

長友和彦 (お茶の水女子大学大学院人間文化研究科教授)

初・中級 授業のヒント

初級レベルの作文

本ばこ (新刊教材・図書紹介)

国際交流基金開発教材紹介

日本語国際センター制作事業課

ニュース・編集部から

Essay

“CREOLE” Family

Anna Ogino (Writer)

Inaugural Address

KOMATSU Junetsu (Deputy Director of The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa)

Special Report

Survey Report on Japanese-Language Education Abroad 1998

International Symposium Celebrating the 10th Anniversary of the Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa

“Is Japanese Useful?”

The Possibility of Japanese as an Intercultural Language

Intermediate and advanced Aspect of Japan Today in the Newspaper and Magazine

Entrance Examination.

(Enforced by the National Center for University Entrance Examinations.)

(This article is prohibited to appear on the web sight by copyright holder.)

Beginning and intermediate Japanese Life As Seen in Photographs

Attending Office

Research on the Japanese Language & the Japanese Language Education

A Syllabus Design Based on the Study of Second Language Acquisition

Kazuhiko Nagatomo (Professor, Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University)

Beginning and intermediate Ideas for Japanese-Language Classrooms

Beginning Level Composition

Book Shelf : Introduction of New Titles

Teaching Materials Developed by the Japan Foundation

Photo Panel Bank CD-ROM

Miscellaneous News・From the Editors

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

新任のごあいさつ

国際交流基金

日本語国際センター副所長

小松 諄悦 (こまつ じゅんえつ)



2月のすえにバンコクでの4年半の勤務をおえ、帰国し、日本語国際センターに配属になりました。歴代の副所長の功績をけがさないよう努力していくつもりですので、よろしくおねがいします。

さて、当センターも設立11年目にはいりました。これまでの10年が草創期であるとする、いまは成熟期にいったといえるのでしょうか。98年におこなった世界の日本語教育機関調査では、日本語学習者の数は約210万人でした。当センター設立直前の88年が73万人、93年が162万人でしたので、数のうえでは着実に増加しています。

当センターでは、今後は量的拡大とともに、質的充実におおきな努力をはらう必要を痛感しております。上記の調査では、各日本語教育機関のかかえる問題点についてもおきしていますが、その上位をしめたのが、リソース不足、とくに教材の不足や教材・教授法に関する情報の不足でし

た。各国の教育事情や母語にあわせた教材の開発や教授法の策定がのぞまれています。また、教育機材としては、コンピュータの活用が近年激増しているようです。初中等教育機関でも半数以上で使われています。このため当センターでも、インターネットによる教材、教授法などの情報の提供や日本語教師の意見交換の場としてのサイバーフォーラムの開設を予定しています。

日本語国際センターは発足からいっかんして、海外の日本語教育の基盤整備のために努力してまいりました。日本語教育の質量ともなう拡充のために、当センターがないうることにはかぎりがあります。しかし、加藤秀俊所長以下専任講師、職員全員力をあわせて、日本語教育発展のため努力していくつもりです。日本語教育関係者のみなさまのご指導、ご助言をお願いいたします。

表紙エッセイストプロフィール

荻野アンナ (おぎの あんな)

小説家。フランス系米国人を父に持つが、10歳のときに

日本に帰化。平成3年、「背負い水」で芥川賞を受賞。

その他「ドアを開めるな」「スペインの城」など著書多

数。テレビのコメンテーターとしても活躍中。